



**平成 25 年度 UR 技術・研究報告会を開催**  
**「まちを、元気にする チカラ。 ～モッタイナイからモットイカスへ～」**

UR 都市機構（独立行政法人都市再生機構）は、調査研究等の成果を幅広く一般の方々に知っていただくため、下記のとおり「平成 25 年度 UR 技術・研究報告会」を開催します。



今回は「まちを、元気にするチカラ。 ～モッタイナイからモットイカスへ～」をテーマに、機構職員による調査・研究等の成果、事業フィールドにおける取り組み状況の報告のほか、福岡会場においては、福岡市博物館館長 有馬学氏の特別講演を行います。

なお、これらは、国土交通省の住生活月間（10月）の取り組みの一環として開催するものです。

記

1 概要〔福岡会場〕

(1) 日時

平成 25 年 10 月 25 日（金） 10：20～16：30 （開場 10：00）

(2) 会場

レソラ N T T 夢天神ホール（定員 200 名） 福岡県福岡市中央区天神 2-5-55

(3) 内容

特別講演

「まちの個性と力を読み取る - 新修福岡市史『福の民』に見る流儀と工夫」

（講師） 福岡市博物館 館長 有馬 学 氏

調査研究、取り組み等の報告

全 7 課題（別紙のとおり）

研究報告会用テキストは、当日会場で配布いたします。

(4) 入場料・テキスト料

無料 （事前の申し込みは不要です）

## 2 その他の会場

福岡会場のほか、名古屋・大阪・東京においても開催いたします。

|    | 名古屋会場  | 大阪会場  | 東京会場  |
|----|--|---|---|
| 日時 | 10月22日(火)<br>10:20~16:30   | 10月23日(水)<br>10:20~16:30  | 10月30日(水)<br>10:20~16:30  |
| 会場 | 電気文化会館イベントホール<br>(定員 185名)<br>名古屋市中央区栄 2-2-5   | テイジンホール<br>(定員 285名)<br>大阪市中央区南本町 1-6-7(帝人ビル)   | 津田ホール<br>(定員 490名)<br>東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-8-24   |
| 内容 | 特別講演<br>「まちを元気にする地域<br>まちづくりの挑戦」<br>(講師)<br>名古屋大学大学院<br>環境学研究科 都市環境学専攻<br>准教授 村山 顕人 氏<br><br>調査研究、取り組み等<br>の報告<br>全7課題(別紙のとおり) | 特別講演<br>「京都市における空き家<br>問題の現状」<br>(講師)<br>京都女子大学<br>家政学部 生活造形学科<br>准教授 井上 えり子 氏<br><br>調査研究、取り組み等<br>の報告<br>全7課題(別紙のとおり) | 特別講演<br>「建築・新しい仕事の形<br>- 箱から場へ -」<br>(講師)<br>東京大学大学院<br>工学系研究科 建築学専攻<br>教授 松村 秀一 氏<br><br>調査研究、取り組み等<br>の報告<br>全7課題(別紙のとおり) |

開場は、各会場とも 10:00 です。

詳細につきましては、UR都市機構(技術研究所)ホームページを御覧ください。

(アドレス) <http://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/>

お問い合わせは下記へお願いします。

九州支社 総務部 総務チーム

(電話) 092-722-1240

本社 技術研究所

(電話) 042-644-3751

(別紙)

平成25年度UR技術・研究報告会  
(メインテーマ、特別講演及び報告課題)

1 メインテーマ

「まちを、元気にする チカラ。 ～モットイナイからモットイカスへ～」

超高齢社会の到来、環境・エネルギー問題への意識の高まり、そして東日本大震災からの復興など、私たちのまちや住まいに対する意識も大きく変わろうとしています。

長い間地域の人々に親しまれてきた団地のさまざまなものを、もっと活かすこと、イカした使い方を考えることで、生き活きと暮らし続けることのできるまちづくりを考えていきたいと思います。

2 特別講演

〔東京会場〕 10月30日(水) 津田ホール

「建築・新しい仕事の形 - 箱から場へ - 」

(講師) 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 教授 松村 秀一 氏

現在、日本には約6000万戸の住宅ストックがあり、その内800万戸近くが空き家だと言われている。これは過去半世紀の間一生懸命に箱を造ってきた成果なのだが、どうすればこの有り余る箱を人々の豊かな生活の場に仕立て上げられるのか。この新しい時代の課題について考えてみたい。

〔名古屋会場〕 10月22日(火) 電気文化会館イベントホール(5階)

「まちを元気にする地域まちづくりの挑戦」

(講師) 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 准教授 村山 顕人 氏

近年、住民、地権者、事業者、企業、行政、非営利活動団体などの多様な主体が協働で、自分たちが共有できる地区の将来像を模索し、その実現に向けた実行計画を検討し、多様なプロジェクトを臨機応変に展開する地域まちづくりの動きが盛んになってきました。大都市インナーシティの再生及び郊外の環境共生型住宅地の形成に関わる事例を交えながら、地域の内発的な力で地域を元気にしていく地域まちづくりの可能性と課題を探ります。

〔大阪会場〕 10月23日(水) テイジンホール

「京都市における空き家問題の現状」

(講師) 京都女子大学 家政学部生活造形学科 准教授 井上 えり子 氏

近年、大都市における空き家問題が深刻になりつつあります。空き家の増加は、防犯・防災上の不安を高めるだけでなく、人口減少による地域力の低下等の問題を引き起こしています。このような中で、不動産事業者や建築の専門家はどのような役割を担うべきなのでしょうか。空き家問題の現状と、京都市が平成 22 年よりおこなっている試み(行政・不動産事業者・地域・その他の専門家が一体となって、空き家調査・活用提案・予防対策に取り組んでいます)を紹介します。

〔福岡会場〕 10月25日(金) レソラN T T 夢天神ホール

「まちの個性と力を読み取る - 新修福岡市史『福の民』に見る流儀と工夫」

(講師) 福岡市博物館 館長 有馬 学 氏

変化の激しい大都市でありながら、福博の人々は独特の気風を持っている。平日は会社員、休日は町内の出社、夜は「なおいだ」と飲み明かす。むしろ山笠に出るために普段仕事している。普通でありつつ個性的な人々がどう町を作り生かしているのか、新修福岡市史『福の民』を例に読み解く。

### 3 調査・研究、取り組み等の報告

- (1) リノベーションによる新たな賃貸住宅スタンダードへの挑戦 (M U J I × U R、暮粋)
  - (2) 東日本大震災復興事業の加速化にむけて  
～都市再生機構の復興支援の概要と進捗状況～
  - (3) 既存住棟の大胆なリノベーションにむけて  
～鋼管コッターを使用したスラブ増設技術の研究～
  - (4) 既存住棟屋上の有効利用にむけて  
～太陽光パネル設置にかかる風環境等の技術的検証～
  - (5) 住棟屋上の緑化による有効利用にむけて  
～薄層土壌による屋上緑化技術の開発と導入 20 年～
  - (6) 雨水の循環がもたらす効果の多面的活用  
～雨水浸透工法を中心とした水循環技術の導入効果及び評価手法等の検討～
  - (7) (東京会場・大阪会場のみ)  
ルネッサンス i n 洋光台  
～次世代に継承するまちづくりのさきがけとして UR 賃貸住宅を活用したエリアの再生と普及～
- (名古屋会場のみ)  
藤枝市における UR 中部支社の街づくり支援
- (福岡会場のみ)  
若久団地における団地再生プロジェクトについて